

# 桜井市立学校規模適正化基本計画策定にかかわる 保護者アンケート結果

「未来を担う子どもたちに、より良い環境の中で魅力ある教育を進めていくためのアンケート調査」

調査対象：桜井市在住で市内の小学校2年生と5年生に在籍する子どもがいる世帯

調査期間：令和元年5月20日 ～ 5月24日

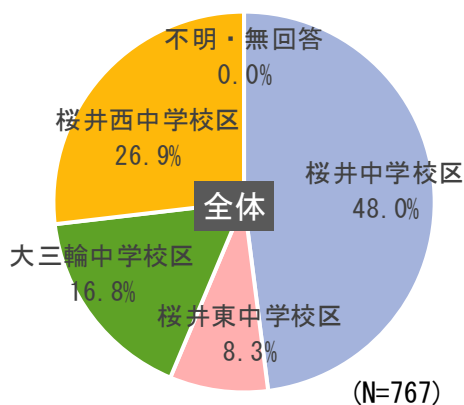
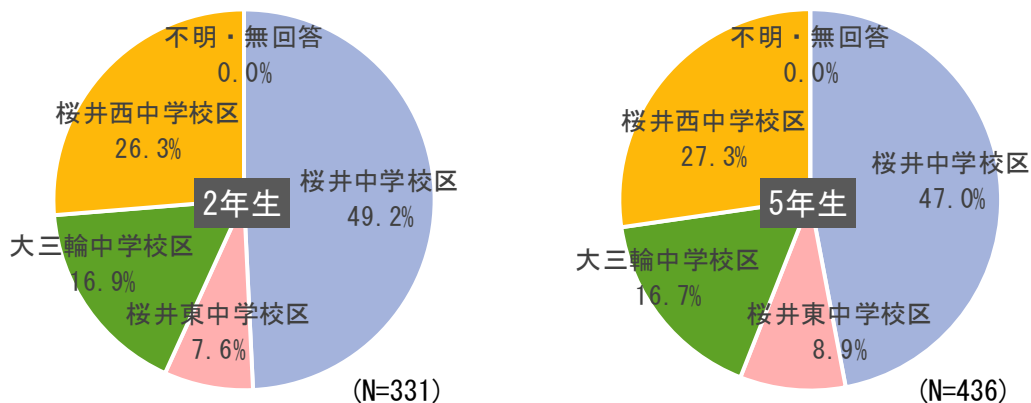
配布部数：862部

回収部数：770部

回収率：89%

### 問1 どの中学校区にお住まいですか。

- ・2年生、5年生ともに「桜井中学校区」が最も多く、2年生：49%、5年生：47%。
- ・次いで、「桜井西中学校区」が多く、2年生：26%、5年生：27%。

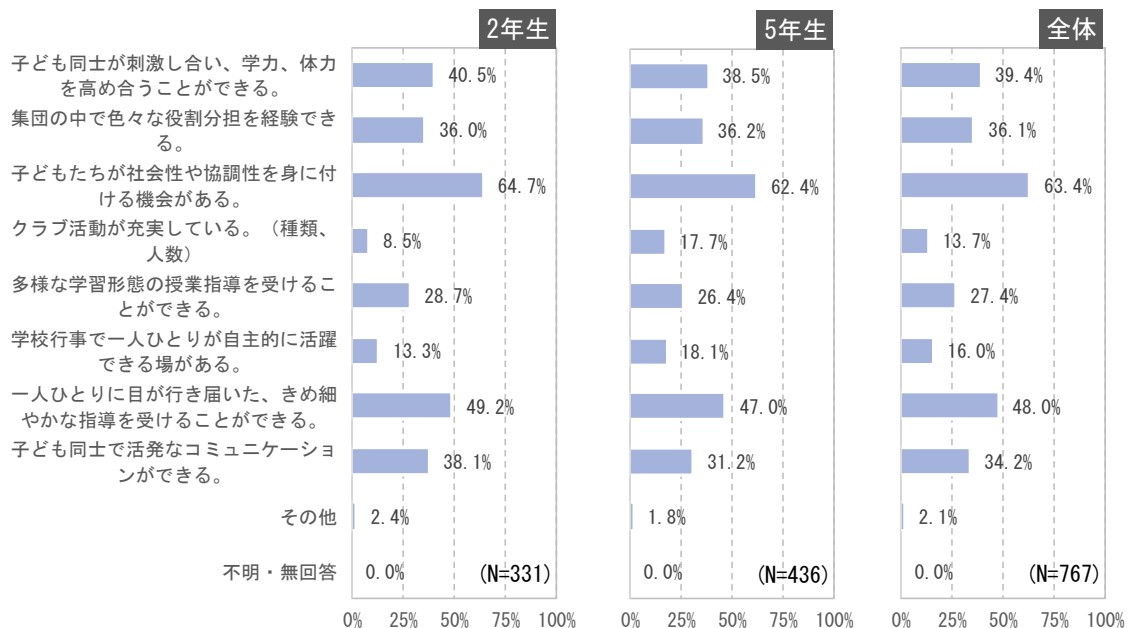


		2年生		5年生		全体	
		件数	割合	件数	割合	件数	割合
1	桜井中学校区	163	49.2	205	47.0	368	48.0
2	桜井東中学校区	25	7.6	39	8.9	64	8.3
3	大三輪中学校区	56	16.9	73	16.7	129	16.8
4	桜井西中学校区	87	26.3	119	27.3	206	26.9
	不明・無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計		331	100.0	436	100.0	767	100.0

※塗りの■は1位、■は2位を示す

問 2 子どもたちの生きる力を育むため、これからの学校教育環境として、必要と思われるものについて、考えに近いものを次のうちから3つ以内で選んでください。

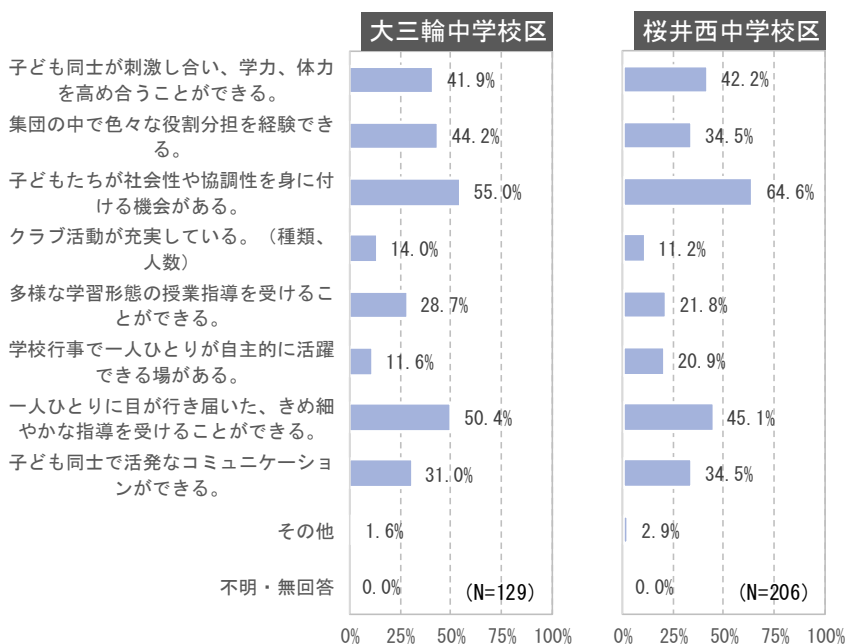
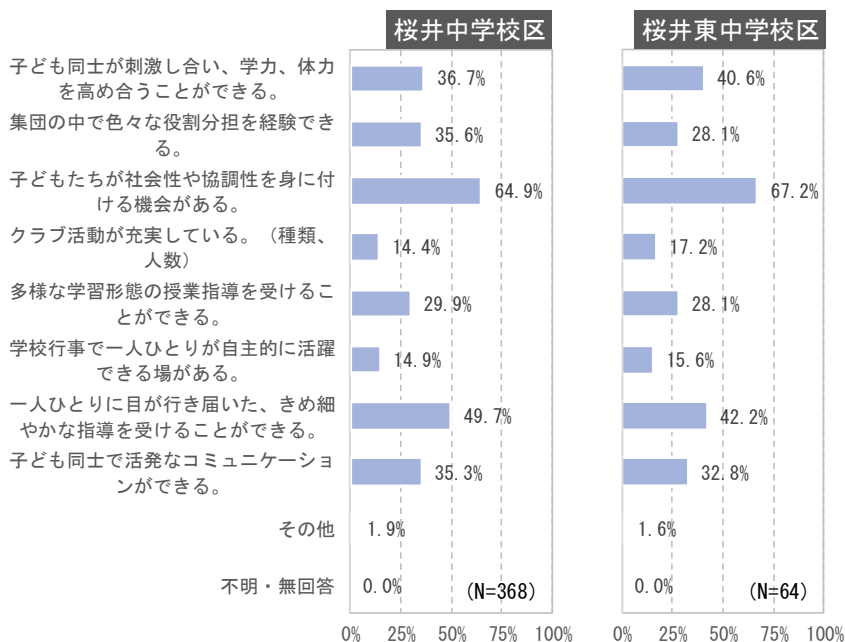
- ・2年生、5年生ともに「子どもたちが社会性や協調性を身に付ける機会がある。」が最も多く、2年生：65%、5年生：62%。
- ・以下、「一人ひとりに目が行き届いた、きめ細やかな指導を受けることができる。」がそれぞれ5割弱、「子ども同士が刺激し合い、学力、体力を高め合うことができる。」がそれぞれ約4割。



(3つ以内で複数回答)		2年生		5年生		全体	
		件数	割合	件数	割合	件数	割合
1	子ども同士が刺激し合い、学力、体力を高め合うことができる。	134	40.5	168	38.5	302	39.4
2	集団の中で色々な役割分担を経験できる。	119	36.0	158	36.2	277	36.1
3	子どもたちが社会性や協調性を身に付ける機会がある。	214	64.7	272	62.4	486	63.4
4	クラブ活動が充実している。(種類、人数)	28	8.5	77	17.7	105	13.7
5	多様な学習形態の授業指導を受けることができる。	95	28.7	115	26.4	210	27.4
6	学校行事で一人ひとりが自主的に活躍できる場がある。	44	13.3	79	18.1	123	16.0
7	一人ひとりに目が行き届いた、きめ細やかな指導を受けることができる。	163	49.2	205	47.0	368	48.0
8	子ども同士で活発なコミュニケーションができる。	126	38.1	136	31.2	262	34.2
9	その他	8	2.4	8	1.8	16	2.1
	不明・無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計		331	100.0	436	100.0	767	100.0

※塗りの■は1位、■は2位、■は3位を示す

- ・すべての中学校区で「子どもたちが社会性や協調性を身に付ける機会がある。」が最も多く、特に、桜井東中学校区では67%を占める。
- ・次いで、すべての中学校区で「一人ひとりに目が行き届いた、きめ細やかな指導を受けることができる。」が多く、3番目には、大三輪中学校区では「集団の中で色々な役割分担を経験できる。」、他の3校区では「子ども同士が刺激し合い、学力、体力を高め合うことができる。」が多い。



(3つ以内で複数回答)		桜井中学校区		桜井東中学校区		大三輪中学校区		桜井西中学校区		全体	
		件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1	子ども同士が刺激し合い、学力、体力を高め合うことができる。	135	36.7	26	40.6	54	41.9	87	42.2	302	39.4
2	集団の中で色々な役割分担を経験できる。	131	35.6	18	28.1	57	44.2	71	34.5	277	36.1
3	子どもたちが社会性や協調性を身に付ける機会がある。	239	64.9	43	67.2	71	55.0	133	64.6	486	63.4
4	クラブ活動が充実している。(種類、人数)	53	14.4	11	17.2	18	14.0	23	11.2	105	13.7
5	多様な学習形態の授業指導を受けられることができる。	110	29.9	18	28.1	37	28.7	45	21.8	210	27.4
6	学校行事で一人ひとりが自主的に活躍できる場がある。	55	14.9	10	15.6	15	11.6	43	20.9	123	16.0
7	一人ひとりに目が行き届いた、きめ細やかな指導を受けられることができる。	183	49.7	27	42.2	65	50.4	93	45.1	368	48.0
8	子ども同士で活発なコミュニケーションができる。	130	35.3	21	32.8	40	31.0	71	34.5	262	34.2
9	その他	7	1.9	1	1.6	2	1.6	6	2.9	16	2.1
	不明・無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計		368	100.0	64	100.0	129	100.0	206	100.0	767	100.0

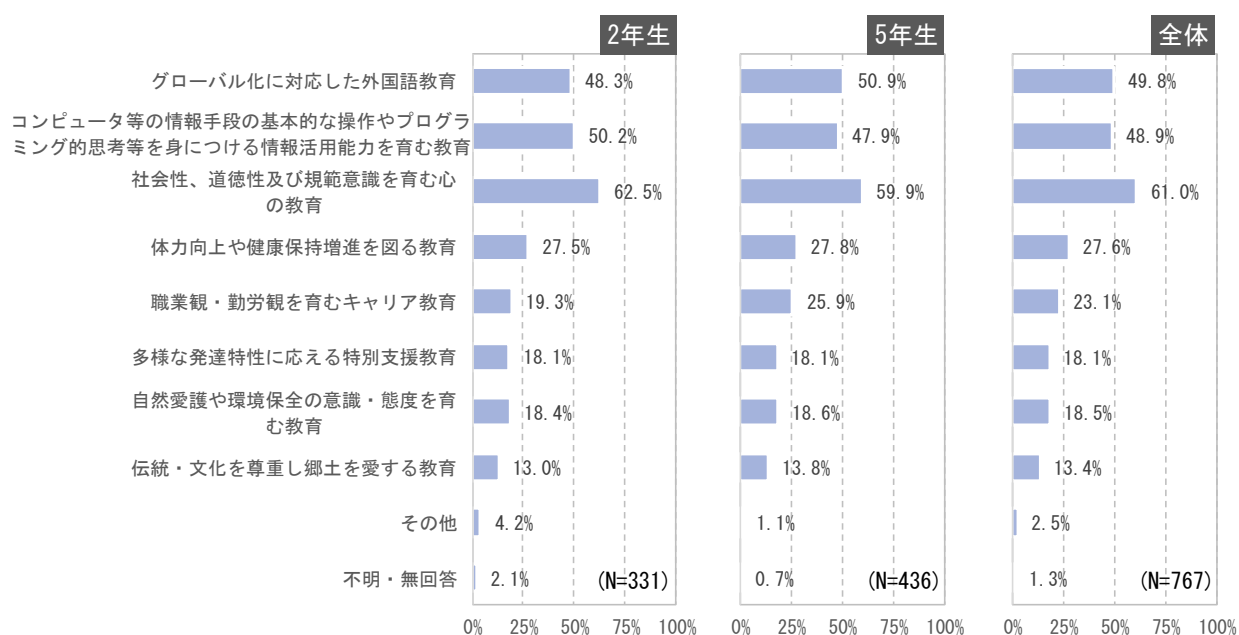
※塗りの■は1位、■は2位、■は3位を示す

その他 16件 2.1% ※複数回答あり

- ・ 自主、自立、達成感、主体性 (3)
- ・ 体験(自然体験も含む)を通して学ぶ機会 (3)
- ・ プレゼンカ
- ・ 目標に向かって努力する経験
- ・ 多様な考えを出し合える環境
- ・ 先生とのコミュニケーション
- ・ ルールを守らせる指導者
- ・ 水泳の泳力
- ・ 一人ひとりの個性に合わせた教育
- ・ 学習意欲が高められる指導
- ・ 問題が起こっても隠蔽しない体質
- ・ 休みが多くて、塾頼みの学校教育
- ・ 通学時間が短いこと

問 3 桜井市では、人権尊重の精神を培うことを基盤として、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子どもたちの育成を目指しています。そこで、学校教育の充実を図るために、優先して取り組むべきことについて、考えに近いものを次のうちから3つ以内で選んでください。

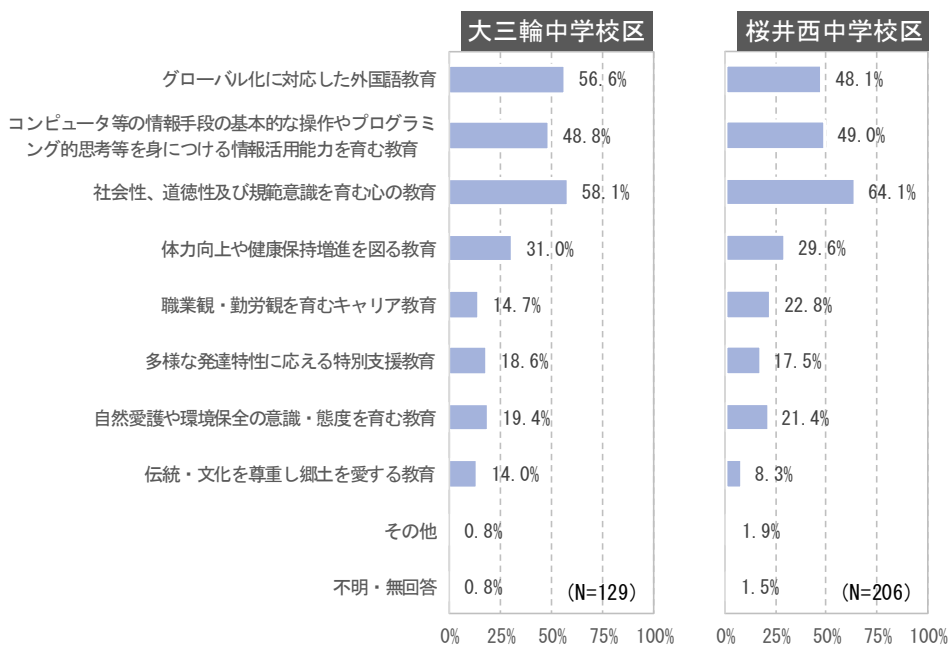
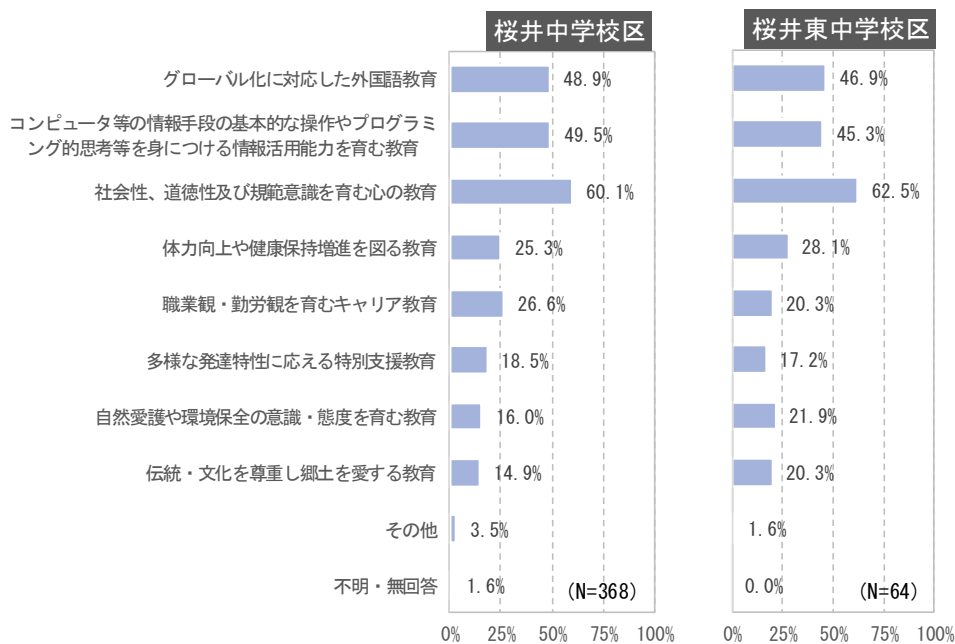
- ・2年生、5年生ともに「社会性、道徳性及び規範意識を育む心の教育」が最も多く、2年生：63%、5年生60%。
- ・以下、2年生では、「コンピュータ等の情報手段の基本的な操作やプログラミング的思考等を身につける情報活用能力を育む教育」が50%、「グローバル化に対応した外国語教育」が48%。
- ・以下、5年生では、「グローバル化に対応した外国語教育」が51%、「コンピュータ等の情報手段の基本的な操作やプログラミング的思考等を身につける情報活用能力を育む教育」が48%。



(3つ以内で複数回答)	2年生		5年生		全体	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1 グローバル化に対応した外国語教育	160	48.3	222	50.9	382	49.8
2 コンピュータ等の情報手段の基本的な操作やプログラミング的思考等を身につける情報活用能力を育む教育	166	50.2	209	47.9	375	48.9
3 社会性、道徳性及び規範意識を育む心の教育	207	62.5	261	59.9	468	61.0
4 体力向上や健康保持増進を図る教育	91	27.5	121	27.8	212	27.6
5 職業観・勤労観を育むキャリア教育	64	19.3	113	25.9	177	23.1
6 多様な発達特性に応える特別支援教育	60	18.1	79	18.1	139	18.1
7 自然愛護や環境保全の意識・態度を育む教育	61	18.4	81	18.6	142	18.5
8 伝統・文化を尊重し郷土を愛する教育	43	13.0	60	13.8	103	13.4
9 その他	14	4.2	5	1.1	19	2.5
不明・無回答	7	2.1	3	0.7	10	1.3
合計	331	100.0	436	100.0	767	100.0

※塗りの■は1位、■は2位、■は3位を示す

- ・すべての中学校区で「社会性、道徳性及び規範意識を育む心の教育」が最も多く、特に、桜井西中学校区では64%、桜井東中学校区では63%を占める。
- ・また、すべての中学校区で「グローバル化に対応した外国語教育」と「コンピュータ等の情報手段の基本的な操作やプログラミング的思考等を身につける情報活用能力を育む教育」についても45%以上を占めているが、大三輪中学校区では他の中学校区と比べて「グローバル化に対応した外国語教育」の割合（57%）が高い。



(3つ以内で複数回答)		桜井中学校区		桜井東中学校区		大三輪中学校区		桜井西中学校区		全体	
		件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1	グローバル化に対応した外国語教育	180	48.9	30	46.9	73	56.6	99	48.1	382	49.8
2	コンピュータ等の情報手段の基本的な操作やプログラミング的思考等を身につける情報活用能力を育む教育	182	49.5	29	45.3	63	48.8	101	49.0	375	48.9
3	社会性、道徳性及び規範意識を育む心の教育	221	60.1	40	62.5	75	58.1	132	64.1	468	61.0
4	体力向上や健康保持増進を図る教育	93	25.3	18	28.1	40	31.0	61	29.6	212	27.6
5	職業観・勤労観を育むキャリア教育	98	26.6	13	20.3	19	14.7	47	22.8	177	23.1
6	多様な発達特性に応える特別支援教育	68	18.5	11	17.2	24	18.6	36	17.5	139	18.1
7	自然愛護や環境保全の意識・態度を育む教育	59	16.0	14	21.9	25	19.4	44	21.4	142	18.5
8	伝統・文化を尊重し郷土を愛する教育	55	14.9	13	20.3	18	14.0	17	8.3	103	13.4
9	その他	13	3.5	1	1.6	1	0.8	4	1.9	19	2.5
	不明・無回答	6	1.6	0	0.0	1	0.8	3	1.5	10	1.3
合計		368	100.0	64	100.0	129	100.0	206	100.0	767	100.0

※塗りの■は1位、■は2位、■は3位を示す

その他 19件 2.5%

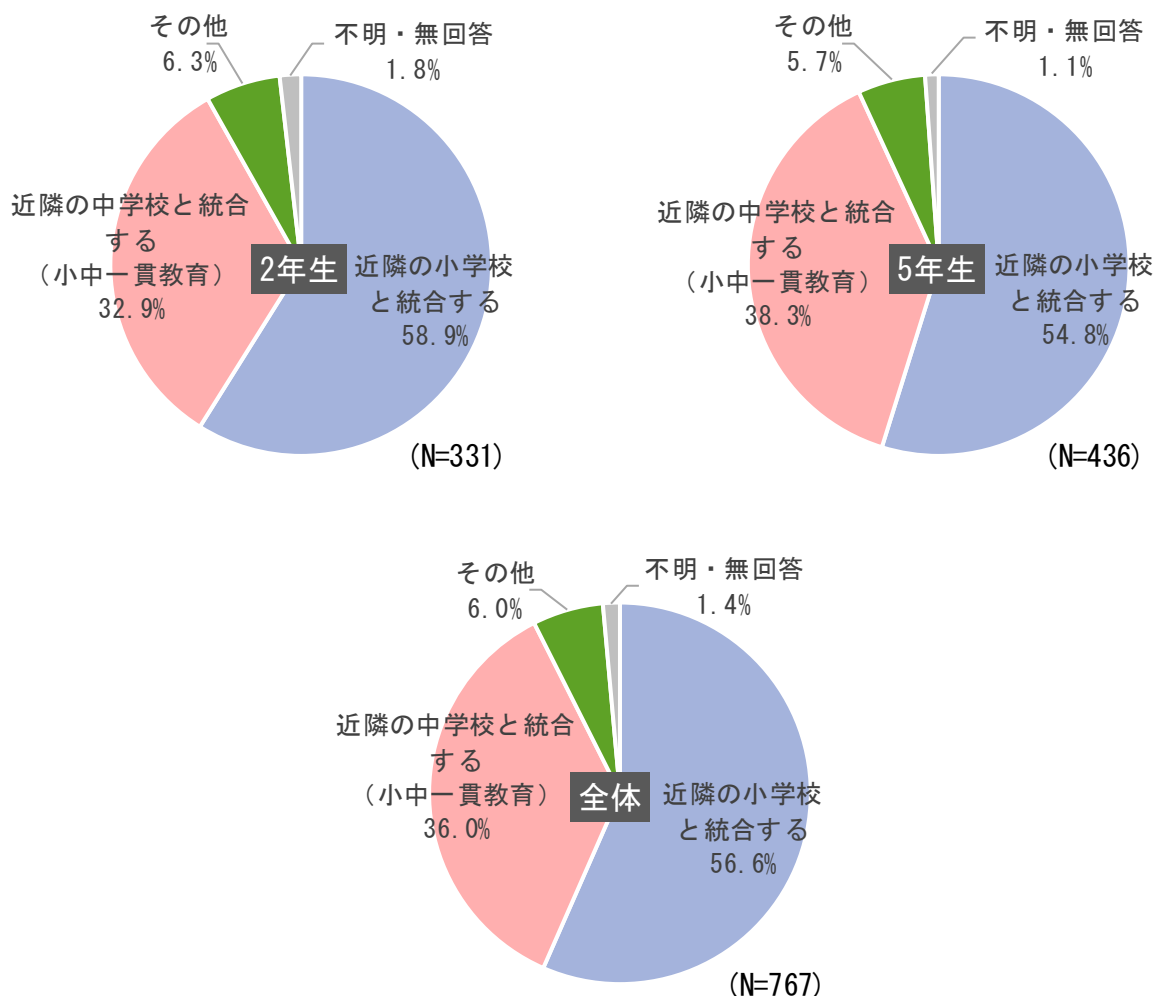
- ・教える側の教育、教師の資質向上 (3)
- ・個性を活かす教育 (2)
- ・人の話を聞く力。プレゼン力
- ・選択、自己決定のできる機会
- ・教師の意識改革
- ・食育
- ・社会参加
- ・人を思いやる心
- ・自ら考える教育
- ・いじめのない環境
- ・お金の教育
- ・外国人講師による日常英会話
- ・コミュニケーション能力
- ・無回答 (3)



問 4 将来、小学校でも少子化が進み、利用されなくなる教室の増加や集団教育が困難になる状況が想定され、統合の検討も必要になってきます。

そこで、将来の小学校のあり方に対する検討の方向性について、考えに近いものを次のうちから1つ選んでください。

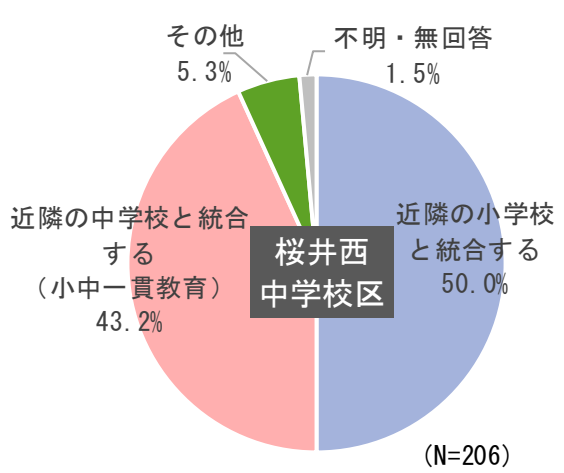
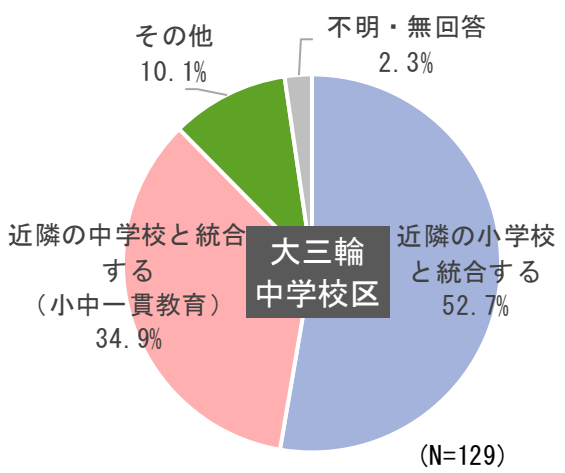
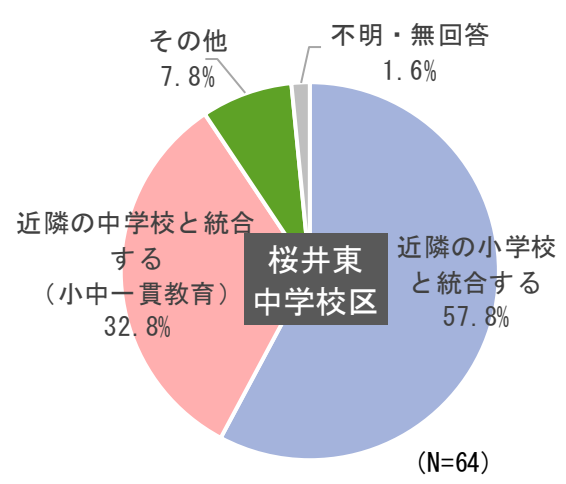
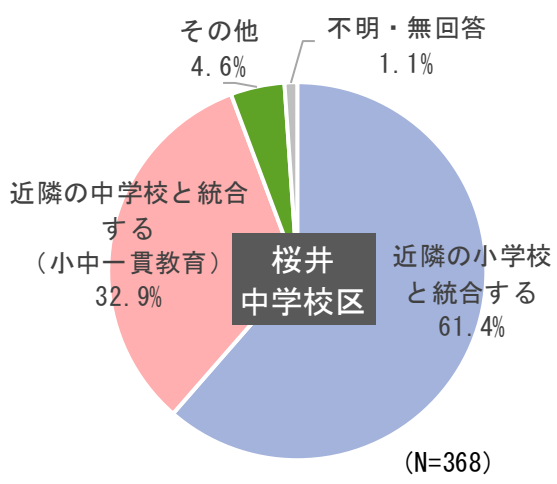
・2年生、5年生ともに「近隣の小学校と統合する」が最も多く、2年生：59%、5年生55%。



	2年生		5年生		全体	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1 近隣の小学校と統合する	195	58.9	239	54.8	434	56.6
2 近隣の中学校と統合する (小中一貫教育)	109	32.9	167	38.3	276	36.0
3 その他	21	6.3	25	5.7	46	6.0
不明・無回答	6	1.8	5	1.1	11	1.4
合計	331	100.0	436	100.0	767	100.0

※塗りの■は1位を示す

・すべての中学校区で「近隣の小学校と統合する」が最も多く、特に、桜井中学校区では 61%、桜井東中学校区では 58%を占める。



	桜井中学校区		桜井東中学校区		大三輪中学校区		桜井西中学校区		全体	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1 近隣の小学校と統合する	226	61.4	37	57.8	68	52.7	103	50.0	434	56.6
2 近隣の中学校と統合する (小中一貫教育)	121	32.9	21	32.8	45	34.9	89	43.2	276	36.0
3 その他	17	4.6	5	7.8	13	10.1	11	5.3	46	6.0
不明・無回答	4	1.1	1	1.6	3	2.3	3	1.5	11	1.4
合計	368	100.0	64	100.0	129	100.0	206	100.0	767	100.0

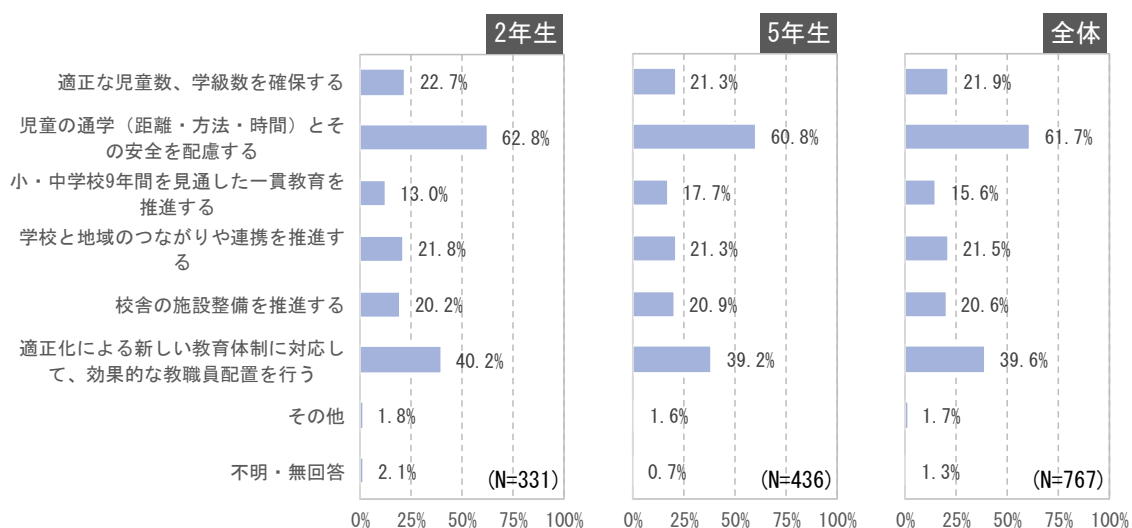
※塗りの■は1位を示す

その他 46件 6% ※複数回答あり

- ・分からない (6)
- ・通学距離が長くなるのか懸念する (5)
- ・少人数で一人ひとりに応じた教育 (4)
- ・現状維持 (4)
- ・統合は考えられない (4)
- ・小学校区の見直し (3)
- ・空き教室を放課後クラブに (2)
- ・通学安全面を考えると統合は望ましくない (2)
- ・スクールバスは子どもの体力面で不安がある
- ・通学時間がかかるから賛成できない
- ・統合の時期と見極めが大事
- ・昔のようなおおらかな環境
- ・希望する学校に通える
- ・校区を見直し1校でも多く残す
- ・幼稚園や老人ホームなど多様化
- ・歩いて登校できる環境
- ・異学年授業は反対
- ・通学距離や方法の確立を望む
- ・小規模のほうが全てにおいて優れている
- ・校区再編の上、統合に賛成
- ・子どもを増やす取組をする
- ・クラスを増やしてほしい
- ・少人数の学習、空いた教室は地域に活用
- ・無回答 (3)

問 5 今後、学校の適正規模・適正配置を検討するうえで、配慮すべきと思われる点はどのようなことだと考えますか。重要と思われるものを次のうちから2つ以内で選んでください。

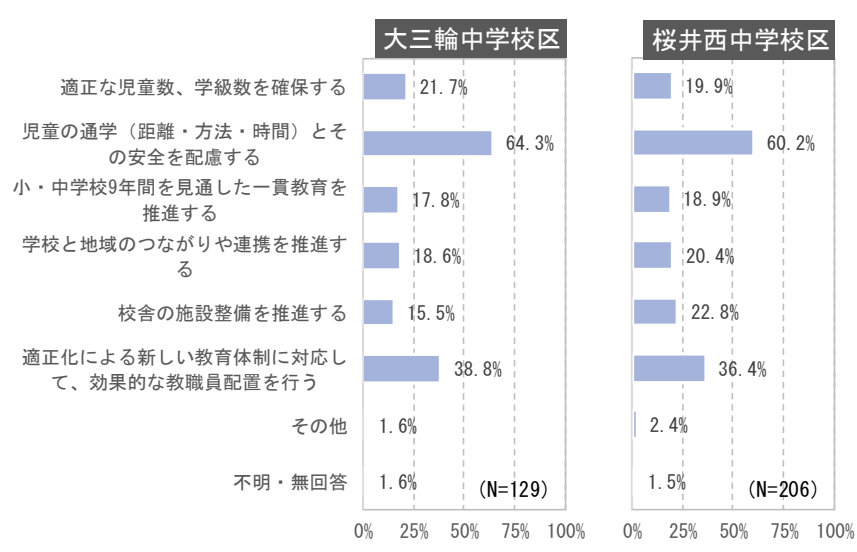
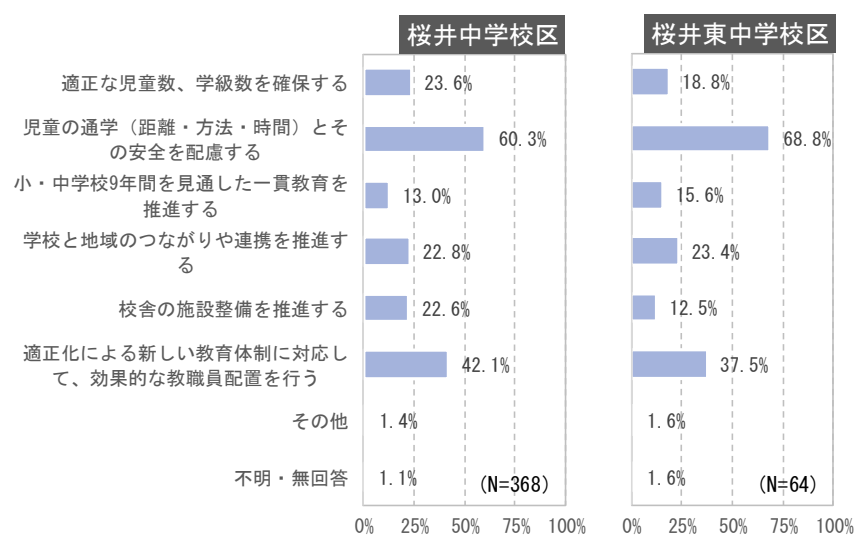
- ・ 2年生、5年生ともに「児童の通学（距離・方法・時間）とその安全を配慮する」が最も多く、2年生：63%、5年生61%。
- ・ 次いで、「適正化による新しい教育体制に対応して、効果的な教職員配置を行う」がそれぞれ約4割。



(2つ以内で複数回答)		2年生		5年生		全体	
		件数	割合	件数	割合	件数	割合
1	適正な児童数、学級数を確保する	75	22.7	93	21.3	168	21.9
2	児童の通学（距離・方法・時間）とその安全を配慮する	208	62.8	265	60.8	473	61.7
3	小・中学校9年間を見通した一貫教育を推進する	43	13.0	77	17.7	120	15.6
4	学校と地域のつながりや連携を推進する	72	21.8	93	21.3	165	21.5
5	校舎の施設整備を推進する	67	20.2	91	20.9	158	20.6
6	適正化による新しい教育体制に対応して、効果的な教職員配置を行う	133	40.2	171	39.2	304	39.6
7	その他	6	1.8	7	1.6	13	1.7
	不明・無回答	7	2.1	3	0.7	10	1.3
合計		331	100.0	436	100.0	767	100.0

※塗りの■は1位、■は2位、■は3位を示す

- ・すべての中学校区で「児童の通学（距離・方法・時間）とその安全を配慮する」が最も多く、特に、桜井東中学校区では69%を占める。
- ・次いで、すべての中学校区で「適正化による新しい教育体制に対応して、効果的な教職員配置を行う」が多い。



(2つ以内で複数回答)		桜井中学校区		桜井東中学校区		大三輪中学校区		桜井西中学校区		全体	
		件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1	適正な児童数、学級数を確保する	87	23.6	12	18.8	28	21.7	41	19.9	168	21.9
2	児童の通学(距離・方法・時間)とその安全を配慮する	222	60.3	44	68.8	83	64.3	124	60.2	473	61.7
3	小・中学校9年間を見通した一貫教育を推進する	48	13.0	10	15.6	23	17.8	39	18.9	120	15.6
4	学校と地域のつながりや連携を推進する	84	22.8	15	23.4	24	18.6	42	20.4	165	21.5
5	校舎の施設整備を推進する	83	22.6	8	12.5	20	15.5	47	22.8	158	20.6
6	適正化による新しい教育体制に対応して、効果的な教職員配置を行う	155	42.1	24	37.5	50	38.8	75	36.4	304	39.6
7	その他	5	1.4	1	1.6	2	1.6	5	2.4	13	1.7
	不明・無回答	4	1.1	1	1.6	2	1.6	3	1.5	10	1.3
合計		368	100.0	64	100.0	129	100.0	206	100.0	767	100.0

※塗りの■は1位、■は2位、■は3位を示す

その他 13件 1.7%

- ・教員の研修を充実 (4)
- ・朝早くから学校が受け入れる仕組み
- ・先進的な教育
- ・通学用のバスの配置
- ・幼稚園、保育所の施設整備
- ・教師の増員
- ・児童の負担軽減の校区再編
- ・特別支援学級のあり方について考えてほしい
- ・異学年交流を活かした教育
- ・無回答

## アンケート結果考察

- ・ 問2 子どもたちの生きる力を育むため、これからの学校教育環境として、必要と考えるものとして、「子どもたちが社会性や協調性を身につける機会」を望む保護者が6割以上を占め、ついで「一人ひとりに目が行き届いた、きめ細やかな指導を受ける」、「子ども同士が刺激し合い、学力、体力を高め合う」環境を望んでいる。この結果から、子ども一人ひとりに目が行き届き、丁寧な指導、分かる授業、安心な学校生活を望んでいることが分かる。また、多くの子どもたちの中で多様な意見を出し合い、自分の考えを深め、人間関係をつくるコミュニケーション能力や切磋琢磨できる環境を強く望んでいる。これらのことから、学校教育環境を整えるうえで、ある一定程度の学校規模、学級規模が必要であるといえる。

- ・ 問 3 学校教育の充実を図るために、優先して取り組むべきこととして、「社会性、道徳性及び、規範意識を育む心の教育」を望む保護者が6割以上を占め、ついで「プログラミング的思考を身につける情報活用能力」「グローバル化に対応した外国語教育」と続いている。

この結果から、いじめ等を許さない人権意識の高い子どもの育成を最重要課題と捉え、安心安全な環境の中で、プログラミング的思考や外国語教育など新しい教育を身につけることを望んでいる。これらのことから、学校教育の充実には、義務教育9年間を見通した教育課程の編成が可能な小中一貫教育を進めることが有効と思われる。
- ・ 問 4 将来の小学校のあり方に対する方向性について、「近隣の小学校と統合する」を選んだ保護者が6割近くいる。残り3割が「近隣の中学校と統合する」を選んでいる。

この結果から、小規模化が進む学校では、近隣の小学校あるいは中学校と統合することは必要と考える保護者が大半であることが分かる。また、「その他」、「不明・無回答」など統合に対して分からないあるいは反対であるという回答は1割以下となっている。
- ・ 問 5 学校の適正規模・適正配置を検討するうえで、配慮すべき点について、「児童の通学（距離・方法・時間）とその安全を配慮する」と回答した保護者が6割を超えている。ついで、「効果的な教職員配置」を4割近くの保護者が望んでいる。

この結果から、統廃合を進めるうえで、通学距離が伸びる児童の通学手段として、バス、電車を活用するなど、安全の確保に充分留意しなければならない。また、通学路の安全点検や地域ぐるみの安全確保、子どもたちの危険予測・回避能力の育成にも努めなければならない。
- ・ 問 4 の「近隣の中学校との統合」が少ないこと、問 5 の「小・中学校9年間を見通した一貫教育を推進する」を選んだ保護者が少ないことは、共に小中一貫教育に対する周知が足りないことからくる不安が大きいと思われる。今後、保護者や地域住民対象の講演会やリーフレットの作成・配布する必要があると考えられる。